

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良く なっている やや良く なっている			
		商店街（代表者）	それ以外	・当社の取引先は、景気が良い会社と悪い会社の差が極端になっている。やや良くなっていると回答した理由は景気が上昇している会社からの注文が多かったためである。他は平年通りであるため、その分のみ上がったとみてよい。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・これまで、客の来店と購買が結び付かない状況が続いたが、今は来店と購買が比例する形で結びついている。客が購買意欲をもつようになった。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・10月に入り好天続きで来客数が増加している。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・前月と比べて、衣料品及びファッション雑貨の動きが良くなってきている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・売上は好調に推移している。客数も前年比約102%で推移している。プレミアム付商品券の効果もあり売上の問題は無い。生鮮食品においても売上金額は好調に推移しており、特に野菜は相場高により売上金額が大幅に伸長している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品は、客が価格高騰に慣れてきて、販売点数が伸びている。確実に売上があがるようになってきた。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・比較的金額が高くブランドイメージのよい商品の動きが良くなっている。
		スーパー（統括者）	販売量の動き	・売上高は、対前年比増である。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・不動産業界の客に聞くと、非常に活況であるという話である。
		ドラッグストア（部長）	販売量の動き	・10月は気温が低めに推移したこともあり、風邪薬やスキンケア商品など冬物の季節商材の販売が好調である。また、来店客数も購入点数も増えている。インバウンド客の来店も引き続き堅調だ。プレミアム付商品券の効果も、一定程度あったものと考えられる。
		観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・プレミアム付宿泊券発行の影響が大きい。
		観光型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・相変わらず、宿泊観光客数は伸び続けている。長崎は世界産業遺産登録に続き、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録が控えているため、今後も伸びていくと予想される。
		観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・毎年、この時期はハイシーズンなので、上向きになることは当たり前だと考えられる。
		都市型ホテル（販売担当）	それ以外	・宿泊、婚礼、一般宴会、レストランのいずれも好調を維持している。売上高は前年比119%ぐらいで上期を終了する予定である。
都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・この1年間、ずっと団体の予約がきちんと入り、インバウンドが単価を上げている。その効果が続いている。		
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・地域の客の入場者数はなかなか上がらないが、地域外からの客、特に企業の褒賞旅行や社員旅行などでゴルフをプレーする客が増えつつある。当地域は野菜の高騰で農家は潤っているがサービス業は厳しく、ゴルフのプレー回数も減っている。厳しい状況が続いているが、地域外からの客が多いということで少しは明るい点もある。		
変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・売上は3か月前と同じような推移をする。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・隣接する商店街が年間を通して大工事をしている影響もあり、来客数が減っている。食堂が3店ほど閉店した。まちづくりをもっと見直していく必要がある。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・地方の商店街では、中国人観光客の爆買いによる売上は期待できない。高齢者の客が多い商店街では、客は所得の増加が見込めず、生活必需品を買うのが精一杯である。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数は悪くないが、当商店街は海外からの旅行者の見学ルートに入っており、ただ通り過ぎるだけの客が多く、あまり売上にはつながらない。逆に、一般客が買物をする妨げになっている。	

一般小売店〔青果〕(店長)	それ以外	・台風の影響で、野菜の相場がかなり高騰していたが、ここにきて逆に安くなり過ぎている。これまでは販売単価が高かったが、今では単価が半分になり、売上が上げにくくなっている。また冷え込みが少ないので鍋物商材の大型野菜が動いていない。
一般小売店〔精肉〕(店員)	販売量の動き	・販売量も単価も変動はない。
一般小売店〔鮮魚〕(店員)	お客様の様子	・売れている店と売れてない店の差が顕著になってきた。
一般小売店〔生花〕(経営者)	販売量の動き	・9月の彼岸が終わるこの時期は、あまり良くない。
一般小売店〔茶〕(販売・事務)	販売量の動き	・野菜の価格高騰のしわ寄せがお茶葉に来ているのではないかと思ってしまうほど購入単価が低くなっている。来客数は増えているので売上は例年と変わらない。
百貨店(総務担当)	販売量の動き	・気候が安定し、アパレルテナントについては秋冬物が活発に動いており好調であるが、全体的には客単価が落ちており、客数も前年実績並みで推移している。
百貨店(営業担当)	お客様の様子	・伸びている商品は、紳士靴や婦人帽子、寝具、ナイトウェアといった、自家需要の雑貨・リビング商品である。高額商材は、時計やメガネ、ハンドバッグなどが好調である。
百貨店(営業担当)	販売量の動き	・3か月前も上向き基調だったが、今月も続いている。
百貨店(売場担当)	競争相手の様子	・当店の競合4店舗の売上はいずれも前年を割っていないので、今月の状況はやや良かった。また、当店の入店客数は、7月以降前年を超えている。非食品の客単価が96.8%、購買客数が105.1%で、食品は客単価が101.3%、購買客数が105.3%となっている。部門別の売上は、衣料品トータルでは97.8%、家庭用品91.9%、食料品107.1%、雑貨が93.9%となっている。
百貨店(店舗事業計画部)	お客様の様子	・服や服飾品の売上は不安定で、化粧品、食品、雑貨が堅調という流れは変わらない。服や服飾品は9月上旬に気温が冷え込み始めてから動きだしたが、9月中旬から10月にかけて暖かい日が続き、客が秋物に反応しなくなった。
百貨店(売場担当)	販売量の動き	・都市部と異なり地方では10月の国慶節のインバウンド需要もなく、非常に厳しい1か月であった。
スーパー(経営者)	単価の動き	・株価の下落や賞与などの不透明感から買い控えとなっている。
スーパー(店長)	販売量の動き	・価格が高騰している野菜を除いては、なかなか売上が伸びない。野菜以外の価格は下がっているが、それでも動きが鈍い状態である。特に家庭用品、雑貨類の動きが非常に悪い。
スーパー(経理担当)	販売量の動き	・急な冷え込みで鍋商材、冬物衣料などの動きが良い。販売金額は確保できているが客数は前年に届いていない。値上げの影響が大きい。
コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・客数、客単価、購入点数共に下がっている。実質賃金が増えているとは言えず、厳しい状況が続いている。
コンビニ(エリア担当・店長)	来客数の動き	・おにぎりの100円セールを行っていたが、セール終了後、他店で同じようなセールがあると、そちらのほうに客が流れていく。客としては1円でも安い商品があれば安い店へ行き、安定した集客に結びつかない。今後は長期の施策が必要になってくる。
衣料品専門店(店長)	お客様の様子	・特に変化はないが、秋に向かって少し良くなっているようだ。
衣料品専門店(店長)	お客様の様子	・晴天続きで来客はぼちぼちだが、冷やかし客ばかりで販売につながらない。
衣料品専門店(店員)	来客数の動き	・10月は気温が高く、ニット類などの秋物の動きが弱かった。地元野球チームの優勝セールによる集客はあったが、ひと月を通して来客が少なかった。
衣料品専門店(総務担当)	お客様の様子	・10月前半は比較的堅調な動きであったが、後半以降は天候要因もあるのか急激に落ち込んだ。要因としては、当店が主力とするシニア層ミセスの購買が、非常に慎重になってしまったことが挙げられる。
衣料品専門店(取締役)	お客様の様子	・台風が10月に来なかったので来店客が多く、まずまず結果が良かった月であった。

衣料品専門店 (チーフ)	来客数の動き	・今までは海外客の爆買いが売上の中心になることもあったが、今はやや減少傾向にある。客数の動きが鈍く、売上の減少が見受けられる。
家電量販店(店員)	販売量の動き	・前年と比べるとほぼ同じなのでどちらとも言えない。
乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・大規模なイベントを開催しても新車の受注台数が伸びない。売れているのは一部の人気車種に限られている。コンパクトカーは軽自動車と競合し、苦戦をしている。
住関連専門店 (経営者)	単価の動き	・今月は地元産業祭があり来場者数は多かったが、売上には結びつかなかった。一方、それ以外のイベントによる売上は順調に推移し、前年同期を上回る数字となった。
その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	販売量の動き	・新規顧客が増える一方、既存顧客の来店は減少しており、客数は横ばいの数字である。販売量も前年と前年と変わらない。
その他専門店 [ガソリンスタンド](統括)	販売量の動き	・ガソリンの小売価格は下げ止まりとなった。いまは満タンで購入する客が多い。10月の3連休などの行楽需要に期待したが、ガソリンなどの販売量は前年並みである。小売価格が下がった分、客はカーケア商品を購入しており、売上が微増した。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	販売量の動き	・アパレルの店舗の売上改善がみられない。
その他小売の動向を把握できる者 [土産卸売] (従業員)	単価の動き	・高価格帯の商品の動きが悪いため、売上が伸びない。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (統括者)	販売量の動き	・先月は9月の大型連休で売上増となったが、今月は天候に恵まれ来場者数と売上が共に増えた。インバウンドに支えられている部分もある。
その他小売 [ショッピングセンター](広報担当)	販売量の動き	・特徴的なセールやイベントを実施している店舗は集客がうまくいっているが、ふだん通りの営業をしている店舗は下降傾向にある。ネットやテレビに影響を受けて購買をする人も多く、「仕掛け」に敏感になっているようだ。
高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・昼の客数はある程度安定しているが、夜の客数が少ない。
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・外国からの観光客頼みのところがある。この先、海外の景気に左右される部分があり、そこが不安要因になっている。
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・国内旅行は引き続き好調であるが、海外旅行は9月の大型連休の反動か、高単価の商品が売れていない。
タクシー運転手	来客数の動き	・例年10月は気候が良くタクシー利用者は減少する。今年も雨が少なく、平年並みであった。
タクシー運転手	来客数の動き	・当地にも韓国や中国から観光客がたくさん押し寄せしているが、我々タクシー業界にはあまり影響がなく、ずっと横ばいの状況である。どちらかというバス会社のほうが業績は良さそうだ。
タクシー運転手	お客様の様子	・今月は入りが多かった割にはゴルフ客が少なく、タクシー利用が少なかった。
タクシー運転手	来客数の動き	・日中の客の乗車率はかなり良いが、夜の繁華街の売上がひどい状況である。
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・業種問わず特定の企業だけは調子が良いが、ほとんどの企業において景気の良い話がない。
競輪場(職員)	販売量の動き	・売上の前年比は横ばいで推移している。
美容室(経営者)	販売量の動き	・3か月前と比べてあまり景気は回復しておらず、売上も横ばいである。年末に向けて少し業界も活性化していく。
美容室(店長)	お客様の様子	・同窓会や旅行があるなど、必要に迫られて来店する客が多く、懐に余裕がある感じがしない。
設計事務所(代表)	販売量の動き	・販売量などに変化はない。
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・不動産業のマンション、戸建て分譲では、客の来客数がここ何か月は横ばいで、成約状況についても変わらず伸びがない状況である。

	やや悪く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・7～9月まで実施していたキャンペーンが終了して、10月はやや来街客数は少なくなった。駅ビル開業、美術館の開業効果はまだ持続しているが、客数は若干下向きになっているようだ。
		百貨店（営業担当）	競争相手の様子	・今月は中旬からの気温の低下に伴い、婦人服などの衣料品が少し動いている。特に今月は富裕層による高額商品の購入があり、中でも宝飾、美術などがかなり伸びている。理由としては、相続税対策による購入が考えられる。
		百貨店（営業統括）	単価の動き	・株価下落の動きや生活環境の厳しさが、特に高齢者の客の購買に表れている。来店はあるが、購買単価が落ちてきている。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・最近、テレビ等で軽減税率の話題がのぼるため、増税が気になっている客が多い。それまでに節約すると言う客もいる。商品を決める際も、慎重に考え、その場で決められない客が多い。
		スーパー（店長）	単価の動き	・青果の相場が1か月前より5～10円安くなっている。青果は前月までは112%で推移していたが、今月はやっと前年比105%となっている。青果の相場安で全体の流れも減る状況となり、100.3%ぐらいで推移している。衣料品は少し寒波が来たせいか売上が徐々に上がっており、前年並みの103%になっている。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店、コンビニエンスストア、ローカルスーパー共に販売数量は前年を上回っているが、3か月前と比べると3%落ちている。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・客数は変わらないが、確実に客単価が下がっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・本年4月の介護報酬マイナス改定に伴い、施設系、在宅系問わずサービスの単価がダウンし、経営に大きな影響を与えている。
		音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・お稽古事を始める時期ではない。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・今月イベントを開催したが、3か月前に開催したイベントに比べ来客数は1割減となり、動きが少し悪くなっている。
	悪く なっている			
企業 動向 関連 (九州)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月は原料事情も回復し、工場生産もフル稼働の状況である。天気が良く運動会などの行事もあるので、スーパーの販売も好調な動きである。業務用も居酒屋などで引き合いが強く、売上は計画を上回る予想である。冷食メーカーも年末年始の生産で原料注文が多く予定を上回る見込みである。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原料の収穫期で、製造も販売も比較的順調に推移している。
		繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・新規物件の引き合いが多い。競争相手もあまりいない。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今年はずべての月で、前年比で売上、利益共に上回っている。特に東京オリンピックや外国人観光客が増えている影響で、商業施設やホテルでの家具需要が多い。今年の売上は約25%増となっている。関東以外でもホテルの出店計画は拡大している。
		電気機械器具製造業（経営者）	競争相手の様子	・発注元は年内までは仕事が多いそうだ。品質や生産性を上げていけば、徐々に良い状況になる確信している。
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・地方で大手の撤退の動きがある一方で、一部事業を他社が買い取って継続する動きがある。商流によっては、増産も見られる。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新車投入効果によって生産数量も増え、安定している。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・客からの要望や動きはあまり変化がない。
		通信業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・公共事業分野において、マイナンバー制度にかかるIT関連投資が活発である。

	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地は建設業関連の業種が多く、これまでは発注量が少なく大変厳しいという声が聞かれてはいたが、ここ最近では発注量も増えており、景況感ではやや良くなっているといった声が聞かれる。ただしこれまで工事量が少なかったこともあり、今後は状況をみていかなければならない。
	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・先月まで低調だった通信販売、旅行商品で前年を上回る出稿があり、全体の売上をけん引している。数か月ぶりに前年を上回った。
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注件数・金額共に増加しており、企業の投資意欲が上向いている。
変わらない	農林水産業（営業）	受注量や販売量の動き	・業界内の相場動向も含め、全体の大きな流れは変わらない。
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当工場の製品は、景気の影響をあまり大きく受けない。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・通常の商品の受注が活発ではない。10月にあったイベントの売上は前年度より良かったが、営業用としての受注活動はなかなか厳しいようだ。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ユーザーからの受注量が相変わらず不安定である。秋口に入って期待は持っているが、なかなか思うようにならない。上昇する気配がないのが今の状況である。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体設備部門が不調、自動車関連設備部門が好調である。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月になって多少貨物の荷動きは良くなったが、依然今年の天候不順により段ボール関係、板紙関係の動きが良くなく、それに伴い商品の動きも悪くなっている。景気は回復していないような状況である。
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・特に荷物の量は変化していない。
	輸送業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・最低賃金やパート時給単価などは上昇しているが、物価は上昇しておらず、商品単価に連動する物流単価も上昇していない。結果的に人件費コストのみが上がり経営を圧迫している。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・3か月前と比べてほとんど変わっていない。良くなる要因がなく、消費動向や客の様子も変わらない。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・公共投資が減少傾向にあり、海外向け製品の生産もやや弱含んでいる。一方、雇用者所得は改善してきており、百貨店・スーパーなどの売上は持ち直してきている。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・一般消費者に関わる業種である小売や飲食は、売上が低迷している状況が続いている。3か月前と状況は変わらない。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・小売業の売上に変化はみられない。取引先の資金ニーズも変化はない。
	金融業（営業）	取引先の様子	・景気が良くなっているとは言えないが、製造業は高水準の受注を確保しており、円安による国内回帰の動きは定着している。
	経営コンサルタント	それ以外	・同業のコンサルの受注状況や活動状況を聞くとあまり活発なようではない。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・官公庁は、学校や病院の改修計画を国の指針に従い計画中であるが、新築せずに改修しながら効果的に施設管理していく方針である。ファイナンスを用いた計画案もあり、相談が増加している。民間事業者の中には、インバウンドに関連し民泊を事業化する動きなどもあり、各社リスクを取りながら先行者利益を得る活動をしている。新機軸となる事業を検討している企業は多い。
やや悪くなっている	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・発注工事が少ない。受注競争のくじ抽選が多く、受注できていない状況である。官公庁は上半期で70%の発注を予定していたようであるが、約50%ぐらしか発注されていない。残工事がどの程度あるのか不安である。早期の発注と年度末に向けた大型補正を是非発注してほしい。
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村から発注される調査や計画等の委託業務の入札で、落札価格が予定価格より大きく下回る金額のケースが増え始めた。市町村からの業務発注数が減少傾向にあり、受注者側が請け負う業務が少なくなってきたことが推察される。

	悪く なっている			
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
(九州)	やや良く なっている	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求人に対して求職者の数が圧倒的に少なくなっている、売り手市場になっており、事務系案件でも中小企業の詳細がわからない求人には応募がない。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数は、前年6～8月までの3か月の総数でみると総数9667件だが、今年6～8月は総数10854件となっており、求人数は増加している。一方、新規求職者は前年比で400人ほどの減である。
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は減少傾向にあり、求職者数も減少している。労働環境は安定傾向にあるが、賃金の上昇傾向は頭打ち感がある。
		人材派遣会社 (社員)	それ以外	・イベント施工の請負を行っているが、大手企業はイベント開催範囲や回数を増やす傾向にある。一方、行政関係のイベントは経費削減を強く要請されている。
		人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求職者の数が減少している状況は変わらない。募集を出しても反応も少なく、契約に至る求人が減っている。
		新聞社[求人広 告](担当者)	それ以外	・株価が下落傾向にある。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比マイナス1.1%の微減、前年同月比で4か月ぶりに減少した。欠員補充の割合が高くなっており、急募の比率も減少している。業種間にばらつきがみられるものの、企業における人手不足感はあまりない。
		職業安定所(職 員)	採用者数の動き	・新規求人数は増加傾向だが、新規求職者数は減少傾向である。このため有効求人倍率はアップしているものの、就職件数は前年同月比でマイナスの状況が続いている。企業が必要としている人材の供給が滞っており、企業活動の懸念材料になっている可能性がある。景況は変わらないと考えられる。
		職業安定所(職 業紹介)	求人数の動き	・新規求人の前年比での増加傾向が続いているものの、増加割合にややばらつきがみられる。
		民間職業紹介機 関(社員)	求人数の動き	・派遣求人の動きが少ない。
		民間職業紹介機 関(支店長)	求人数の動き	・10月度の求人数は、前年同月より若干多い程度である。
		学校[専門学 校](就職担 当)	求人数の動き	・企業の求人意欲はおう盛である。大学生が辞退する関係で十分採用が確保されていない状況がある。
	学校[大学] (就職支援業 務)	求人数の動き	・新卒採用活動も後半に入っているが、依然として中小企業を中心に求人数は増えており、人材獲得は活発に行われている。	
	やや悪く なっている	人材派遣会社 (営業)	採用者数の動き	・市況感としては景気自体は上昇感はないが、建設業関連を中心に、新卒から中途まで採用に関しては活況である。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・福岡都市圏では求人の媒体が増えた分、掲載件数は増えているように見えるが、実際は同じ企業がいろいろな媒体を使っていたり、誌面に同じ求人が何度も登場していたりしている。そのため、求人数の実態がみえてこない。人が集まらないということもあるが、媒体社間の競争も激化している。
		新聞社[求人広 告](担当者)	求人数の動き	・アジアからの観光客の内需もあり、アルバイトやパート中心にメディアの求人がここ数か月延びてきている。中国経済の動向で消費が落ち込み始めると、求人にも影響が出る。
	悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・一部の造船業などで人材不足が深刻で技術者のニーズが高い反面、事務職の求人は少なくトータルでみると景気は下降気味である。